

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2013

3月

No.93

特集

P2・3

第4回
宍粟市
地域福祉の
つどい

とてもよい話が聞けた!!
私も地域づくりに
がんばる!!

ひ孫と
いっしょ

シリーズ92

波賀町 谷

いわぐち 岩口 コトラさん(91歳)

○智留ちゃん(11歳)

○季来俐ちゃん(4歳)

いわぐち 竜 祐さん・幸代さん

■長女・次女

第4回
宍粟市
地域福祉の
つどい

とてもよい話が聞けた!!
私も地域づくりにがんばる!!



第3部のフォーラムの様子(山崎文化会館)

2月10日(日)、山崎文化会館において「第4回宍粟市地域福祉のつどい」を開催し、自治会長や福祉委員、民生委員、一般市民の方など約300人が参加されました。

このつどいは、社協の使命である地域福祉の推進について関係者で話し合うことを目的に、合併後2年に1回開催しています。

今回のつどいのテーマは、「地域のつながりを太くして、ずっと住み続けたいまちへ」。

今号は、今回開催した「地域福祉のつどい」について報告します。

宍粟の地域事情から
これからの地域福祉を
考える

全国で生活保護世帯が214万人を超え、孤立や生活困窮など生活課題が深刻化しています。少子高齢化や過疎化が進む宍粟市においては、人と人とのつながりづくりや支え合いや助け合い活動などの強化、生活公共交通の維持などが大きな課題となっています。

合併後4回目となる今回

のつどいでは、地域のつながりを太くして、だれもが安心して住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なことは何か、参加者とともに考えました。

地域福祉を高める
3つの取組みを報告

オープニングでは、太子町の音楽指導者仲間のグループ「セイ・マンマ」のみなさんに、NHK 東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」等を歌っていただきました。

つどいの基調報告として、神戸学院大学の藤井博志教授から「地域福祉は今…」と題してお話しいただきました。次に、本会の波多野コミュニケーションワーカーが、一昨年に策定した第2次地域福祉推進計画(つながりふくしプラン)の内容とこの2年間の取り組みについて報告しました。

フォーラムでは、藤井教授をコーディネーターに、地域福祉を高める活動に取り組む3つの団体、西深福祉連絡会、NPO法人高次脳機能障害ピアサポート「ひまわりの家」、病院ボランティア「めいちゃん」から、その内容や課題、今後取り組んでいきたいことなどをお話しいただきました。

また、本会の山本事務局長が、どのように住民とみなさんと共に地域福祉活動を進めるのか、お話ししました。

みなさんの発表を聞いた参加者からは、「実践報告の内容がとても良かった」「小地域での取り組みをもっと進めていきたい」「自分も活動に参加しなければと思う」などの感想を寄せていただきました。

西深福祉連絡会

代表福祉委員

田路伸吾さん



○小地域福祉活動モデルの指定地区として活動している。福祉連絡会で話し合いながら準備を進め、ふれあい喫茶や住民福祉学習会、高齢者見守り活動などを実践している。

○モデル地区2年次の取り組みとして、25年度はふれあいサロンにも取り組みたい。西深全住民の福祉に対する意識を高め、息の長い活動を一步步進めていきたい。

NPO法人高次脳機能障害ピアサポート

『ひまわりの家』理事長

佐原美津子さん



○高次脳機能障害を持つ人や家族が集い、障がいについての情報交換や社会復帰のための訓練を行う場として、古民家を再生したカフェと雑貨の店を山崎町段にオープンした。

○高次脳機能障害についての勉強会やミニコンサートなどを開催し、地域の方と交流を深め、誰もが「ほっこり」できる居場所を作りたい。

みなさんの発言から

パネラーのみなさん



(写真左から) 田路伸吾さん、佐原美津子さん、清水省三さん、可藤愛子さん

病院ボランティア

『めいちゃん』

清水省三さん

可藤愛子さん



○総合病院を地域に密着した病院にするため、活動している。青いエプロンをトレードマークに、毎朝玄関前で、患者さん

んを笑顔でお出迎えし、車椅子の移動や受付のお手伝いなどを行っている。

○活動が始まってから、病院の雰囲気柔らかく、明るくなったように感じる。みなさんにも活動に参加してほしい。

宍粟市社会福祉協議会

山本正幸事務局長

○地域のつながりの希薄化が進む中、改めてつながりをつくるための仕組みづくりが必要である。

○現在の福祉制度では対応できない制度の狭間を埋めるサービスを社協として開発し、取り組んでいく。

○市内の保健、福祉、医療の関係者が手をつなぎ、一体となって地域福祉を進めていくことが必要である。

コーディネーター
藤井博志教授

○住民のみなさんが自分たちの

宣言案を採択

生活についてこうありたいというビジョンを持ち、自発性や内発性を高め、継続した福祉活動に取り組んでほしい。

○住民の活動に行政や福祉施設、NPO団体、社協など福祉の専門職が参加し、宍粟の地域福祉を一緒につくってほしい。

これらの議論をへて、最後に「第4回宍粟市地域福祉のつどい宣言（左に掲載）」を多数の拍手で採択しました。

今回のつどいにご協力いただいたボランティアや作品を展示いただいた作業所のみなさん、ありがとうございました。

第4回宍粟市地域福祉のつどい宣言

- 1.「自治会福祉連絡会」をすべての自治会で結成し、福祉でつながる取り組みを進めましょう。
- 2.地域や近隣のつながりをカタチあるものにするために、ささえあい、たすけあいの気持ちが生きる「ご近所ボランティア活動」を始めましょう。
- 3.市内のボランティア、福祉NPO団体、そして福祉・保健・医療関係者は、地域福祉推進のために手をつなぎましょう。
- 4.地域福祉を進める活動財源をみんなで創り出しましょう。

平成25年2月10日

第4回宍粟市地域福祉のつどい

読者の感想より

地域のつながりを大切にされて色々イベント活動があり、私の市でも参考にさせていただきます。（川西市 女性）

や

まさき

ピンクののぼりが目印!!

ワークプラザすぎの木で「まちの保健室」

2月28日(木)、ワークプラザすぎの木(山崎町宇野)で、兵庫県看護協会による「まちの保健室」がありました。

この活動は、地域の誰でも気軽に健康チェックができる場として、看護師や保健師等がボランティアで地域のイベントや施設を訪問し、

健康相談や保健指導、血圧・身体測定などを行うものです。

ワークプラザすぎの木では、年に4回開かれ、今年で12年目を迎えます。相談に来られた方からは「元気な時は来んだけど、

まちの保健室がある日はピンクののぼりがあがります



「久しぶりやね。元気にしよってでしたか」相談者はリピーターの方も多く親子で相談に来られる方も(ワークプラザすぎの木)

(山崎支部 森井裕矢)

調子が悪い時は気軽に聞きに来てうれしい」「近くにこんな場所があると安心できる」と、感謝の言葉が聞けました。「通所者や職員の健康だけでなく、地域の方に来てもらって交流にもなり、喜んでいきます」と、職員のみなさん。

まちの保健室は、ピンクののぼりが目印。お近くのイベントで見かけたときは、お気軽にご相談されてはいかがですか。

い

ちのみや

「ぼくもおてつだいするよ」

いちのみや子育てサロン



じゅうたんを巻いて...

ゆったりとした時間が過ぎていく三方町交流センター。

サロンが終わりに近づくと「ぼくも」「わたしも」と、子どもたちがおもちゃの片付けをはじめます。それが、いちのみやの定番です。

これからもうほっと一息できる素敵な空間を、サロンに来られるみなさんといっしょに作っていきます。

(本部・一宮支部 波多野好則)

会場には、お母さんや子どもたち、ボランティアの方など20人が集まりました。

「お久しぶり」「最近どない」「子どもの調子は」など、お母さんたちの話はずみずみ。

また、「雪の中寒かったやろ」「どこから来たの」と声をかけるボランティアのみなさん。

おもちゃで遊んだり、絵本を読んだり、おしゃべりしたり：



「よいしょ!よいしょ!」みんないっしょにおてつだい! ~木のぬくもりが感じられる三方町交流センター~

は
が

人の話が聞けて 友達が失敗しても 応援できる子に

波賀学童保育所

波賀学童保育所では、1年間の出来事を大きな和紙8枚に描き、つなぎ合わせた「絵巻物」をつくりました。

2月19日（火）には、絵の指導をされた井平幸夫さん（波賀生涯学習事務所）をお招きし、壁に飾った作品を見ながら楽しかった思い出を振り返りました。

子どもたちは、「がんばって描いた絵が一番好き」「風揚げ楽しかったなあ」と、楽しそう。最後に井平さんは子どもたちと「人の話がちゃんと聞けて、友だちが失敗しても応援できる子になってほしい。こんな絵が描けるみんなならできるはず」と約束されました。

「近くの学校や施設へ行って遊んだり、近所の大人に遊びを教えてもらったりして、町内に子どもたちの受け皿がたくさんあって



お花見、七夕、クリスマス…「一生懸命描いた絵は、みんなの心が入った宝物」波賀学童保育所（メイプル福祉センター）

ありがたいです」と波賀学童保育所の井原さんは話されました。

この絵巻物は3月末までメイプル福祉センターの廊下に飾られています。興味のある方は見に来てくださいね。

（波賀支部 平 有利菜）

お弁当を届けて20年

ポピー宅配便

『ポピー宅配便』は、平成5年にグループを結成して以来、この4月で20年を迎えます。

現在、15名のメンバーが交替で、年間を通じて配達サービスのお弁当を届けています。

配達後には「今日も元気でおいちゃったでえ」、「声をかけただけど返事なかったで、ちょっと確認してみてえな」などの報告があり、利用者さんの安否確認にもつながっています。

2月22日（金）、エーガイヤちくさで一年間の振り返りやメンバー同士の交流を兼ねた食事会が行われました。

「うらはのう、弁当を配達できる体でおれることを感謝しとるんじゃ」、「僕はね、お年寄りとお話をするのが好



『こうやって出会うて、ゆっくり話をするもええでなあ』（レストランエーガイヤにて）

きでね」といった声が聞けました。お弁当を届けるだけではなく、利用者さんとのコミュニケーションを楽しんだり、また活動をするために健康にも留意されていることがよく分かります。

ポピーの皆さん、これからも配達サービスをよろしくお願いします。

（千種支部 小原志のぶ）

ち
くさ

868本 たくさんのご協力 ありがとうございました

1月号広報で、未使用カセットテープの記事を掲載したところ、868本のテープをお寄せいただきました。

カセットテープは、ボランティアの皆さんにより、本紙「こんにちは社協です」および宍粟市広報、また物語や絵本などを吹き込み、福祉施設や目の不自由な方など、希望される方にお届けします。



ふきのとうの録音作業の様子
(宍粟防災センター)

寄付いただいた方は、善意銀行だよりでご紹介しています。ご協力ありがとうございました。

安心したボランティア活動を!

平成25年度 ボランティア・市民活動 災害共済受付しています

ボランティア活動をされているみなさんが安全で安心した活動ができるようにボランティア・市民活動災害共済にご加入ください。

この共済は、活動者自身がケガをした「傷害事故」、他人にケガをさせてしまったり、他人の物を壊してしまった「賠償事故」などの事故に備えていただくためのものです。

詳しくは各支部の窓口へ
お越しください。



補償期間: 平成25年4月1日
～平成26年3月31日

掛 金: 1名につき 500円

△お問合せ: 各支部

ボランティア センター日誌 第2の人生を楽しもう!

退職後の地域活動やボランティア活動のきっかけづくり、仲間づくりを目的に全6回の講座がスタート



第2の人生設計をし、自分がこれから
やってみたい夢を話し合いました
(宍粟防災センター)

2月21日(木) セカンドライフ応援セミナー

初回となるこの日、ライフプランナーの吉田清彦さんをお招きし、第2の人生設計と家族や地域への関わりについてお話をいただきました。

意見交換では「若い頃は家のことに見向きもしなかったですが、家事の手伝いをするようになりました」「自由な時間が増えたので、いろんな事に参加し、人との交流を大切にしたいです」と参加者の声。

また、この出会いを大切にし、全講座の終了後には新たな活動につながればと、今後の活動にも意欲的な声もあがるなど、これからのみなさんの取組みが楽しみです。
(本部 田中祥仁)

3年間ボランティア、ありがとう! 卒業おめでとう!!



千種高等学校にて

2月27日(水) 感謝状を贈呈!

3年間にわたり配食サービスのお弁当を笑顔で届けてくれた千種高校ボランティア部3年生5名へ、卒業にあたって感謝状を贈りました。

「いろんな方と知り合えてよかった」、「この経験をいつか役立てたい」と部長のおおかみさきさん。

3年間の経験をこれからの新しい生活にぜひ活かしてもらいたいと思います。

感謝状を手にした5人の笑顔が輝いて見えました。みなさんの今後の活躍を期待しています。

(千種支部 小原志のぶ)

読者の
感想より

配食サービスを毎週火曜日利用し、ありがたく思っています。これからも健康に気を付け、がんばっていききたいと思います。(波賀町 女性)

こんにちは!
社協です!!